

令和5年度 第1回恵庭市自殺対策ネットワーク会議 会議録

日時：令和5年8月2日(水) 15時～16時10分

場所：恵庭市市民会館 大会議室

出席：(委員) 鳴海委員(代)、高橋委員、木村委員、常通委員、淵野委員、松井委員(代)、
吉田委員、長政委員、寺前委員(代)、鈴木委員、駒宮委員、市川委員、中川委員、
三浦委員、吉本委員(代)、佐藤委員

(事務局) 保健福祉部長、保健センター長、保健課長、健康推進担当主査
保健課保健師

欠席：(委員) 我孫子委員、小野澤委員

傍聴：なし

1.開会

保健課長

会議の出席は委員総数18名中16名であり、恵庭市自殺対策ネットワーク会議設置要綱第5条の規定により成立。

差替資料などの確認

2.市長挨拶

3.議事

会長の進行により、議事の審議が進められた。審議内容は次のとおり。

1) 「いのち支える恵庭市自殺対策」について

→質疑・意見なし

2) 恵庭市における自殺の状況

事務局より【資料1】【資料2】【資料3】をもとに説明。

→質疑・意見なし

3) 基本施策ごとの事業の実施状況及び評価指標

【資料4】【資料5】をもとに報告。

→各団体より順次取り組み状況を報告

(A委員) 恵庭市教頭会では、『自殺予防は学校生活の充実から』とし、①自己防衛力向上プログラム②いじめを未然に防ぐ取組を実施。①自己防衛力向上プログラムは、小1から「自分の命は自分で守る」というCAPSを実践、生徒には襲われたときの声の出し方等具体的に伝え、②いじめを未然に防ぐ取組として、市内全域の児童生徒が一同に介する「なかよしさわやかDAY」で、お互いに有意義な交流が生まれている。

(B委員) 高校生に対し、スクールカウンセリングおよびアンケートの実施の他に、個別対応。明らかになっている改善点については、今後改善していきたい。

(C委員) 大学内の保健室で相談に応じたり、非常勤のカウンセラーによる相談を開設している。教員の中にも、学生の生活や悩みに寄り添うアドバイザーを配置している。教員のアカデミックハラスメントへの研修も実施。自殺につながる事例はないが退学する学生の多くは「友達とうまくいかない」といったメンタル面が原因で、ひと昔前の経済苦を越えている。

(D委員) 昨年度も専門学校では珍しくオンライン授業を継続。友人と会えないストレス等から家から出にくくなり、授業が耐えられずうつ症状となるケースもあった。教職員はカウンセリング教育を受けており、卒業後含めてサポートしている。最近では、発達障害の生徒への対応について、教職員が悩むことが出てきている。

(E委員) 昨年、発達障害を診る医師がきたので、必要な場合は来院してほしい。

(F委員) 気分の落ち込みやうつで来院される患者さんが多いが、薬の処方だけでなく、環境調整を要する場合が多いので、職場や法律家、市の窓口等と協力しながら対応している。

(G委員) 民生委員による心配ごと相談は、1件のみであった。

(H委員) 生活福祉資金貸付事業のコロナ特例貸付は、昨年9月に終了しているため件数は減っているが、支援を継続しているものが多い。「ふれあいサロン事業」は、参加数が持ち直してきている。

(I委員) 市内事業所約2000か所のうち、約半数が商工会議所の会員となっている。このほど、経営者の方から「パワーハラスメントに関するアンケート」のひな形の提供依頼を受けており、今年度はパワーハラスメントのセミナーを開催し、職場環境の改善に努めていく。

(J委員) 求職活動中の相談に、所内の精神保健福祉士が応じている他に、月1回千歳病院の臨床心理士の協力で1人あたり50分間程度悩みをきく「こころの相談コーナー」を開設。必要時、医療機関の紹介等を行っている。

(K委員) コロナの影響で3年間中止していた、工業クラブ会員や家族を対象としたイベントを今年度再開する予定。

(L委員) 高齢者に対して生活支援コーディネーターを中心に支援をすすめており、増えている独居世帯についても社協や地域のサロンと協力しながら対応していく。

(M委員) 自殺をほのめかす相談は9名で、前年度より少し増えている。相談支援センターに電話を来るのは、主に夜間帯だが、関わり方として死にたい気持ちにフォーカスしすぎず、生活上の課題があれば日中帯からの支援をしている。

(N委員) 警察から保健所につないで「死なないような支援」をしている。警察から「病院に行った方がいい」と言っても受診してもらうことは難しい。いますぐ自殺しそうな状況というレベルでなく「死にたい気持ちがある」程度での受診勧奨も困難の医療機関・保健所・警察で協力していきたい。

(O委員) 消防では、救急救命士や救急資格者の養成と技術の向上に努めている。

(P委員) コロナ対策へのご協力ありがとうございました。5類となり集計報告方法が変わり、週1回の公表となったが直近で感染者数が増えている状況。また、今年度は管内の自殺対策協議会を開催する予定となっている。昨年度もゲートキーパー養成講座への支援や、相談日の開設をしていたが、コロナ対応で依頼しにくい雰囲気があったかと思う。また、昨年度実施していた「精神保健関係機関との連絡会議」については、すでに今年度も多数実績がある。千歳保健所管内では、働き盛りの相談は少なく、メンタル疾患をもつ方が半数以上と多い印象がある。また、最近は産後や若い発達障害の方からの相談が増えている実感を持っている。保健所では、「相談をしっかり受ける」「自殺予防関連の啓発週間や月間、ゲートキーパー養成講座の支援」を引き続き行っていきたい。

(事務局) しばらくコロナで休んでいた「ゲートキーパー養成講座」を昨年度実施、今年度も保健所に協力いただきながら行う予定。

→副会長からP委員へ質問「恵庭市では自殺者が増えた現状はありますが、近郊の市町村の動向はどうか」

(P委員) 保健所で独自の把握はしておらず、警察庁の情報をもっとも早いと認識している。令和4年は、全体的に増えており、自殺者が多い状況は恵庭市に限ったものではないと思う。

→会長からO委員へ質問「自殺者が増えているとのことですが、自殺未遂者の把握は日ごろの業務で把握できるものか」

(O委員) 自殺の件数としては把握しておらず、「自損行為」との区分で年間30~40件報告している。

4) 令和4年度 事業計画

事務局より【資料6】をもとに説明。

→(事務局) p.26 「令和5年度事業計画」(3)普及啓発 ②こころの健康づくり講演会 で、未定となっている箇所については、11月29日に島松病院の小野澤淳院長をお招きする予定となっている。

5) 健康づくり・食育に関する市民アンケート調査について

事務局より【資料7】をもとに説明。

→質疑・意見なし

6) その他

事務局より次年度の恵庭市自殺対策ネットワーク会議予定について説明。

4.閉会